

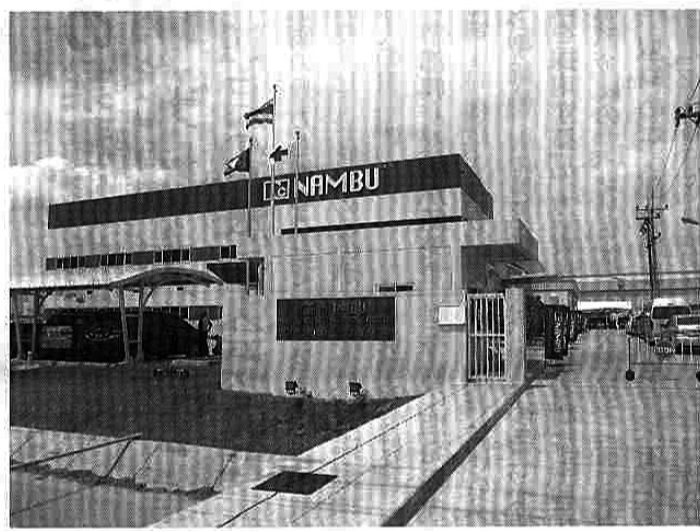
海外工場ルポ……Nambu CYL 南武初の自前工場 油圧シリンドラの新工場本稼働へ アセアン諸国とインド市場に対応

金型用油圧シリンドラの南武(野村和史社長)は、7月20日、タイの新工場を披露した。午後1時からの新工場での開所式、同6時からのバンコク市内ホテル(フォーウイングス)での新工場披露パーティに、それぞれ関係者約100名がお祝いに駆けつけた。

同社のタイ進出は、2002年2月。花野タイランドの工場の一角約300平方メートルを借り受け、従業員20名で生産開始。2006年6月、手狭になったため大田テクノパークの開所に伴い第1号入居者となり引越し、3区画約960平方メートルを借り受けた。従業員52名。

今回完成した新工場の所在地は、大田テクノパークと同じアマタナコン工業団地。これまで同社の海外拠点は全て借り工場運営されてきたが、今回初めて自前工場となった。それが第1の特長だ。投資額は約2億円。

「タイ、インドネシアをはじめとするアセアン諸国とインド市場の将来性を



本稼働を開始した新工場

考え自前工場にする決断を行った(野村和史社長)。

新工場の敷地面積は6400平方メートル、建屋面積は2500平方メートル。従業員は、日本人3名、インド人1名、タイ人53名の計57名。MDは、吉富英明氏。主要設備は、NC7台、MC2台、ホーミングマシン3台(うち2台新設)、フライス盤2台(うち1台新設)、汎用旋盤6台(うち1台新設)、ボール盤4台、ラジアル1台、試験油圧ユニット2台(うち1台新設)。

材料調達には、メインのシヤフトとパッキン材は日本から、チューブ材は中国から輸入、丸棒は現地調達している。

2011年12月期売上高は、1億5000万円を見込んでいます。開所式の冒頭の野村和史社長と披露パーティ冒頭の野村伯英副社長のそれぞれのあいさつと用正秀司ホンダオートモービル・エンジンプラ



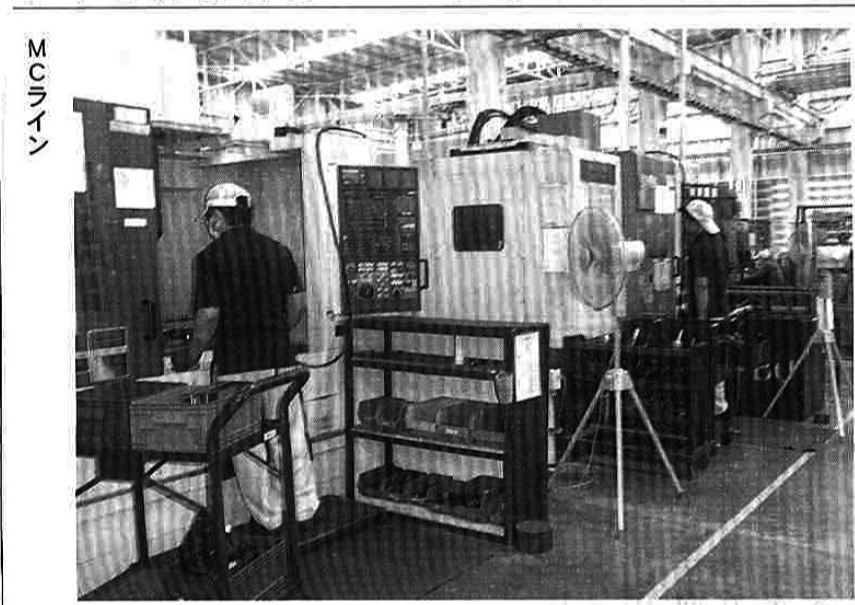
あいさつする野村社長



あいさつする野村副社長

ント部コーディネータのスピーチの骨子は次の通り。野村和史社長のあいさつの骨子、BOI副長官のチヨクテイさん、アマタナコン工業団地のソムハタイさんをはじめ本日も集りの皆様にまずお礼を申し上げます。南武はこれまでタイ、中国、北米のどの国においても例外なく賃借りして生産活動を行ってきたが、今回は当社始まって以来初めて土地を購入し工場を自前で建設する決断を行った。それは、タイ、インドネシアをはじめとするアセアン諸国あるいはインド市場の現状や将来性を考えてのこと。幸いにNCT(Nambu CYL Thailand)の業績は好調で、今回の新工場建設を機にさらに南武グループの牽引車となってくれることを期待している。

野村伯英副社長のあいさつの骨子(1965年に日本初のダイカスト用油圧シリンドラメーカーでスタートして以来、これまで一貫して同製品の高性能化に努め今日に至っている。金型用油圧シリンドラの国内シェアは70%をキープし南武の売上の70%、80%を占めている。もう一つのロータリージョイントもアジアと北米市場で70%のシェアがあり、売上げの20%、30%を占めている。問題解決型企業と位置付け、ユーズニーズにあわせた一品料理型製品の生産を心掛けています。短納期、高品質が特長だ。日米で15の特許を保有し、経産省から「元気のある中小企業」300社うちの1社に選んでいただいている。NCTは、最初300平方メートルの小規模工場からスタートし、2006年大田テクノパーク(建屋1000平方メートル)に移転した。大田テクノパークでは最初の入居者となり、そして最初の卒業企業となった。



MCライン



あいさつする用正氏



出荷直前の完成品

新工場は、5月上旬に移転完了した。新工場では特に納期短縮に心掛けています。NCTは、お客様でリーマンショック以降も成長を続けており、これから二ツチ市場でトップを取る一方針での展開を図る。さらに、今後は、単に規模拡大を追求するのではなく、拠点どうしの相乗効果を追いかけていきたいと思います。

私が駐在して間無しに野村副社長と吉富さんが一緒にホンダに訪問され、それ以来のおつきあいを頂いている。ホンダのニーズをくんでいただき、現在、主要プロダクト機種に南武さんの油圧シリンドラを使わせてもらっている。良い物を安く、速く、柔軟に対応できる大田区の物作り技術を世界に発信し続けていきたいと思います。そして、タイ拠点も世界市場ではばたいていきたいと思います。